

わたしたちとJA



こんにちは! JAです。

わたしたちがつくる、JA。JAでは、わたしたち一人ひとりが主人公です。どうしたことか、覚えていらっしゃいますか?

JAは、わたしたちが支払う出資金で設立されています。それは、わたしたちがJAの事業を利用するため。株式会社の株主と違うのは、わたしたちは投資の目的でJ

Aに出資しているのではなく、よりよい営農やくらしづくりに必要な事業を利用するためでした。わたしたちは、総代会等を通じ、運営にも参画しています。

このページは、これから1年、JAをつくるわたしたちが、これからJAをどうしていくか、共に考えていくためのもの。一緒に、考えてみませんか。

JAって、何だったんだろう。

わたしたち農業者は、個人経営の事業主。一昔前まで、農村部では、農業者が自分だけの力で、肥料や農薬を調達することも、作った農産物を売って現金収入を得ることも、営農資金を借りることもままなりません。JAは、こうしたニーズにお応えできる、数少ない場ではなかったでしょうか。

これからの、JAのこと。

いろいろと便利になった今の世の中。ホームセンターでは、肥料や農薬を予約なしで仕入れることができます。インターネットの革命で、今では都市の消費者に宅配便で農産物を直接販売することもできます。銀行も、農業者に貸付を行うことがあるようです。こうしたことは、マスコミ等でも大きく取り上げられています。

では、JAの役割は、もう過去のものなのでしょうか。あるいは、改めて組合員の営農とくらしを守り、地域を活性化するために役立つことで、まだまだ必要とされるJAであり続けられるでしょうか。

この問いに対する答えを、1年間かけて、一緒に考えていきましょう。なぜなら、JAは、わたしたちのものなのだから。